

令和6年度 第1回下関市市民協働参画審議会 議事概要

- 1 開催日時 令和6年6月7日（金）13時30分から
- 2 開催場所 下関市地方卸売市場唐戸市場2階大会議室
下関市唐戸町5-50
- 3 出席者 下関市市民協働参画審議会委員 17名（2名欠席）

4 審議会概要

- (1) 委嘱状交付
- (2) 市民部長挨拶
- (3) 委員自己紹介
- (4) 会長、副会長選任
- (5) 議題

①助成事業審査部会委員の選任について

事務局より市民活動支援補助金及び助成事業審査部会について説明。

委員の区分毎（公募委員、市民活動団体関係者、事業者、学識経験者、市職員）に委員で協議のうえ選出した方を会長指名することとし、5名を助成事業審査部会委員として決定した。

②パートナーシップ年次報告について

事務局より令和4年度市民と行政・市民と市民パートナーシップ年次報告の構成等について説明。現在令和5年度分の報告書を調製中であり、今後の審議会にて諮る旨を説明。

（委員）年々と改善がなされており、前進していると思うが、問題は上手く活用されているかということ。目に見えるところに設置されるようになったが、市民はあまり手に取っていない。市民がどう受け止めて年次報告を活用しているのか、反応が掴めると良い。全般的に社会的なことに対して関心はあるけど関わりきれないという関わる力が物凄く弱まっている。40～50年前は地域や社会に関心があって、自分が関わらないといけないと思い行動に移す人が多かった

が、今は行動しきれない人が多い。だから反応を掴むのは難しくなっている。

(委員) デジタルの時代になって、こういう報告書が公共施設に置いてあっても手に取る人が少なくなっている。届ける側が色々な媒体を上手に活用しながら模索しなければならないと思う。

(委員) 一般市民が年次報告を手にとって見るか見ないかということと、社会や地域に対する積極的な活動参加については、関係はないと思っている。報告書を手にとらないから地域に対する活動の力が落ちているとはみていない。例えば、今の30代4代のお父さんお母さんたちは積極的に子育てで地域の活動に関わっている人は多いと思う。ただ、子ども会は無くなっている。子ども会が存続することと地域の活動が盛況にあるということとは結びついていない。そのように見ている。

(委員) そもそもタイトルが分かり難い。全庁的横断的になり網羅されているからこそ使わないと逆にもったいないと思ったくらい。思い切ってタイトルを分かり易い日本語に思い切って変えてしまうといいのではと思う。

(委員) もう少し市民が手に取りやすいキャッチコピーがあれば良い。手に取って見ることからが大事だと思う。そしてもう少しかたい感じではなく分かり易い方がいいかと思う。

(委員) よくダイジェスト版などが出ているが、それを読み返すのも大変だなと思うこともある。だから、表紙がまず明るくて、取りやすく、自分の興味があるものと結びついているのだと思わないと手には取りにくい。私自身は興味がない方ではないので、わざわざ見たりするが、周りの人が見ているのは見たことがない。良くなっているが今一つというところ。

(委員) 今とても良いアイデアが出て、本当に機会って大事だなと思

う。自分も団体で活動しているからこういう事に接することはあるが、なかなか市や市民活動団体の努力を聞けるチャンスが少ないので、私たちも発信していかないといけないが、一緒になって、この会議がよい方向に助言できればいいなと思う。良い意見が聞けた。

(委員) スマホを持つと情報が勝手に入ってくることがあるが、自分の興味があるものに対しては調べるが、興味のないものについては調べないし見ないという傾向にある。パッと見て興味を引き付けるようなものでないと難しいと思う。

(委員) そもそもこの冊子の発行される目的を知りたい。

(事務局) 市民参画、市民活動がどれだけこの1年間で行われたかを公にして、また、色々なご意見をいただいて、それを推進していこうというもの。広く市民に意見を頂けるようにということで、まず、審議会で行政の取組を評価していただく。ターゲットがあるわけではない。

(委員) 要は、興味のある方が辞書代わりに使えるものであり、推進とは別のものとして考えた方が良かった。市民活動を広げていくうえで、気になる人が開くためのものだと思う。

(委員) 活動について冊子でまとめられてはいるものの、知られていないのが大多数なので、この活動を冊子だけでなく、例えばメディア等で発信していくことも必要と思う。やはり保育園、幼稚園、小学校、中学校、それから学生を巻き込んでいくべき。行政に関心を持っている人も多い。まずはこういった活動に興味を持ってもらうことが必要と思う。

(委員) 大学生は4年間もしくは6年間下関に住むが、たぶん1回もこの冊子を見ずに卒業していく。先程話が出たように、SNS等で何かきっかけが無い限りは目にも止まらないと思う。例えばゴミの収集日を調べるために“しもまちアプリ”を見たときに、偶然イ

ベント情報を目にして見ることはある。参加したり、興味を持ったりは、こちらから投げかけない限りは難しい。多様化している中で、色んなきっかけをどこに作ったらいいのかを、これから模索していかなければならない。

（委員）企業側もこういった活動を知ると、参加してみようということもあるかもしれない。しかし、冊子を作成する時に市民に見てもらうところまで考えていないのか、見る人の気持ちを最優先に考えて報告書を作るべきで、せっかく膨大な資料を作っても100%伝わっていないのが寂しい。今、高齢の方も2次元コードを読み込んだりSNSも利用したりする方も多いので、そのようなツールを使用することで学生たちとの繋がりが出来てくると思う。

（委員）広く一般に伝えるというのは一番伝わりにくい。ターゲットを明確にする方が逆に知れ渡るとというのが今の情報社会の鉄則。ホームページ等を活用する場合も、やり方を効果的にバージョンアップしていく必要があると思う。

（委員）高齢者の方が多いが、情報としてのツールとしては市報の役割は大きいので活用する工夫があればよいと思う。

（委員）そもそも報告書が何で作られているか、冊子をみると市民と行政、市民と市民が対等の立場で「協働」する「市民参画」という社会システムのためのまちづくりをしましょうというのが下関市の方向であり、まちの進め方が今どうなっているのか、あるいはその進み方がどこの部分は上手くいっている、いないということを確認するために報告書を作成している。一方で、生活の様々な場所や色々な活動が企業等の様々な場所でその立場にあると、必ずしも報告書が使われているかということに使われていないということ。これを使えるものにするのか、別に使えるものを作るのかという議論もある。また、用途や立場で情報の載せ方も異なってくる。だから、色々な方々がそれぞれの得意技を掛け合わせてまちづくりを進めていこうとするときに、使えるものをどう作るのか、どうやってその機会等

を設けるのか、そういった情報にアクセスできるような環境を作るのかということ、この審議会でも何らかの形で今後模索していくことが今日の本質的な妥協点かと思っている。

(事務局) この冊子は基本的にはその年度の1年間の施策の報告的な位置づけとなるもので、ちょっと話題になった事例など参考になるものもあるので、今後更に市民にPRしたいと思う。確かに今のネットワークの時代に即した形でも検討していくべき。忌憚のない意見が出てくるので参考になる。

(委員) 総括をすると、多くの人たちにとって冊子は必要と思っている。これまで1年間やったものに対しての総まとめとしては必要だが、市民に対して出すときには再編しないといけないというひと手間が増えるというところが、この情報化社会の良いところでもあり、手間のところでもあると思う。しかし、情報がいかに人々に伝わり、次の行動を促す情報として、この冊子からスタートしていくということを考えると、本日の意見は地域の人たちにとってどう働きかけるかということに対する、きっかけづくりの始まりの意見だったかというふうに思う。皆さんの今日のひとことが明日を作っていくと思っている。

③ 市民意識調査について

事務局より、令和7年度より行う第5次下関市市民活動促進基本計画作成に向けて市民活動の現状と課題を把握するため、今年度、市民及び市民活動団体に対し市民意識調査を実施するために必要な設問設定についての各委員の意見を期日までに提出いただきたい旨を説明。

(委員) 前は紙媒体での実施だったと認識しているが、今回はスマートフォン等での調査回答などのDXは市民部で検討しているのか。

(事務局) 決定ではないが、紙媒体だけでなくスマートフォンでの

回答も検討している。

(委員) 設問が多い場合、全部の回答が必須事項ではなく、自由回答というか数点だけでもOKとする方が回答しやすいと思う。

(委員) それでは意識調査については意見用紙にて、それぞれの意見や感想について提出をお願いします。

※その他の意見

(委員) 話が逸れるかもしれないが、第4次市民活動促進基本計画の目標値について聞きたい。どういう意味かが分からない。例えば成果指標の45%とか。数値が何を示しているのか。

(事務局) 例えばこれが100%になるのが最終目標というわけではない。

(委員) たぶんこれが市民と行政の感覚の違いであって、市民の側からすればゲーム性みたいなものがあって、100%マックスまでいくためにはどうしないといけないのか、今45%だからもっと頑張らなきゃいけないという感覚。行政側はそうではなくて、今ある数値よりもちょっと上に目標値を定めて、次はもうちょっと頑張ろうというもので、まちづくりはエンドレスにやらないといけなくゴールが無い。努力してもどこまでやればいいのか分からないというそのゴールが分からない、そのゴールが無いものをさせるのかという市民からの意見。たぶんそのようなところを少しずつ見直していかないといけないことがあるし、今日はじめて話をすると、今までの当たり前が当たり前でないというところがある。この審議会は非常に良いと思う。色々ご意見はあるが、一旦、事務局も含めて、案を作ってみながら試行錯誤していきたいと思っている。

(委員) 話の続きで、この市民参画をしたことがある方を増やすことによって何がしたいのかが重要と思う。例えば今どきの言葉でWell-being (ウェルビーイング)、幸福度をアップさせるとか、その

辺りの繋がりが何のために市民参画を増やしたいかというところを考えた方がいいと思う。

(委員) 経験したことがあるだけでは駄目で、その次に何がしたいのかという部分が必要ということだろうと思う。

(6) その他

最後に事務局より今後のスケジュールと連絡調整方法について説明。

以上で全ての予定を終了し、閉会した。